

石巻専修大学

「石巻専修大学」ホームページ <https://www.senshu-u.ac.jp/shinomaki/>

石巻専修大学
広報係

☎986-8580
宮城県石巻市
南境新水戸1番地
☎0225-22-7717(直)

30th
1989-2019
ISHINOMAKI SENSU University

創立30周年記念式典・祝賀会 新時代に決意新た

尾池学長

学部学科の改組 教育課程の再編

中長期ビジョンを示す

9月16日に開催された「石巻専修大学創立30周年記念式典・祝賀会」。大学関係者をはじめ、地元自治体などから約200人が出席した。大学の出席者は「平成」とともに歩んだ30年を振り返るとともに、「令和」という新時代に、決意を新たに示した。

教育機関として、これまでに1万人を超える卒業生を輩出し、令和元年の今年、30周年の節目を迎えた。

石巻専修大学は1989（平成元年、理工学部29（平成元年、理工学部4学科・経営学部1学科の2学部5学科体制で開学した。2013（平成25）年には人間学部2と、『社会知性の開発』という21世紀ビジョンの下、学生第一主義を基本に置いた大学運営に努め

尾池守学長は式辞で「社会に対する報恩奉仕」という建学の精神を継承し、石巻専修大学は今後も地域創生の拠点となってもらいたい」と期待を寄せた。

講演後、大学の発展に貢献した石巻地域高等教育事業団理事長の亀山市長、石巻信用金庫の明石圭生理事長、震災復興支援を続けている西島株式会社（愛知県豊橋市）の西島豊社長らの3人に感謝状を贈呈。硬式野球部と合唱部で編成された合唱隊がリードして、出席者全員で校歌を斉唱し、閉式した。

祝賀会では、石巻市と専修大学校友会（小宮多喜次会長）から寄付金、石巻専修大学同窓会（伊東孝治会長）からデッキテーブル5基とベンチ20脚の目録が尾池学長、日高理事長に手渡された。

1期生の伊東同窓会長の発声で乾杯し、出席者たちは和やかに歓談。ステージ上では、アトラクションとして石巻市指定無形民俗文化財「渡波獅子風流（わたのはししふり）」の舞が披露され、尾池学長や3学部長が獅子舞に頭をかまれると、会場は盛り上がった。

卒業生の木村純さん（平10経営・専修大学北上高勤務）は石巻専大での4年間を「伸び伸びと学生生活を送った。ゼミの先生やゼミ生との交流、陸上部でのサークル活動など懐かしい思い出がたくさんある。夏休みには米国のネブラスカ大学リンカーン校で、語学研修をして初めての海外を体験した。現在、教育関係の仕事に就き、改めて人と人とのつながりが大切だと実感している。多くのことを大学時代に教

えられた」と振り返った。

東日本大震災で被災した宮城県沿岸を自転車で行く「ツール・ド・東北」（河北新報社、ヤフー主催）には、石巻専修大学が特別協力しており、第1回（2013年）からスタート・ゴール地点の会場を提供している。

第7回の今年は9月14、15日に行われ、全国から3900人を超えるライダーが参加。本学からサイクリング愛好会の渡部晃士さん（人間2・茨城県第一学院高）、佐々木翼さん（人間2・福島県会津高）が出場し、

人間教育学科3年次生新科目

「人間教育研究基礎」スタート

人間学部人間教育学科の3年次生を対象とした新科目「人間教育研究基礎」が後期から始まった。学生が教員の研究室に所属し、学級経営、いじめ、心理学など各自が関心を持つ保育・教育に関する専門的なテーマについて自主的に掘り下げて学んでいく。

いじめや人権教育などの教育学を専門とする新福悦郎教授の研究室では、10月4日に第1回のゼミナールが行われた。始めに新福教授が自身の研究分野である「実際の教育現場で起きたいじめに関する事件や裁判事例」を紹介。調査や研究の進め方、まとめ方などを伝えた。

その後、学生が興味を表。「今後AIが教育を持つというテーマをやるようになる、という記事に興味がある」と話す松澤寛人さん（人間3・新潟県糸魚川高）は「AIが教育にどのような影響を与えるか、いじめや不登校といった問題も絡めながら研究していきたい」と意欲を語った。

亀山萌加さん（人間3・宮城県東松島高）は「教育現場でのいじめについて学びたい。これからの研究で不登校になる理由を調査し、実情を知りたい」と話した。

学生一人一人にアドバイスを送った新福教授は「研究を進める上で、必要な知識や技能を習得し、探究心を育ててほしい」と学生たちの成長に期待を込めた。

感謝状を贈呈される亀山市長（右端）

伊東同窓会長の音頭で乾杯

近藤裕子人間学部教授の指揮で校歌を歌う

卒業生の木村純さん（平10経営・専修大学北上高勤務）は石巻専大での4年間を「伸び伸びと学生生活を送った。ゼミの先生やゼミ生との交流、陸上部でのサークル活動など懐かしい思い出がたくさんある。夏休みには米国のネブラスカ大学リンカーン校で、語学研修をして初めての海外を体験した。現在、教育関係の仕事に就き、改めて人と人とのつながりが大切だと実感している。多くのことを大学時代に教

えられた」と振り返った。

東日本大震災で被災した宮城県沿岸を自転車で行く「ツール・ド・東北」（河北新報社、ヤフー主催）には、石巻専修大学が特別協力しており、第1回（2013年）からスタート・ゴール地点の会場を提供している。

第7回の今年は9月14、15日に行われ、全国から3900人を超えるライダーが参加。本学からサイクリング愛好会の渡部晃士さん（人間2・茨城県第一学院高）、佐々木翼さん（人間2・福島県会津高）が出場し、

常連の坂田隆理工学部

教授と2人はそろいのサイクルウェアをまとい、坂田教授が170キロ、渡部さんが170キロ、佐々木さんが最長の210キロコースを笑顔で完走した。

教授と2人はそろいのサイクルウェアをまとい、坂田教授が170キロ、渡部さんが170キロ、佐々木さんが最長の210キロコースを笑顔で完走した。

サイクリング愛好会2人 ツール・ド・東北に出場



坂田教授（中央）と完走を喜ぶ渡部さん（左）と佐々木さん

2年連続出場へ
杜の都駅伝

第37回全日本大学女子駅伝対校選手権大会（杜の都駅伝）10月27日、宮城県仙台市）の東北地区代表選考会が9月26日、岩手県の北上総合運動公園陸上競技場で開催され、女子競走部が1時間52分13秒の2位でゴール。2年連続4回目となる杜の都駅伝出場を決めた。

レースは3区間をつなぐ駅伝方式で合計タイムを競う。

主将の庄司琴美さん（経営4・宮城県聖和学園高）は「予選会では、一人一人の課題が浮き彫りになった。本戦までの期間、全力で取り組んでいく。キャプテンとしてチームをまとめ、本戦に臨みたい」と意気込みを話した。